

平成 26 年度第 1 回湖南省総合計画審議会

議事要約

日 時	：平成 26 年 10 月 16 日（木）午後 2 時～4 時
場 所	：湖南省役所 東庁舎 3 階 大会議室
出席者	：市長、委員 20 名
欠席者	：5 名

1. 開会（事務局）

第 1 回湖南省総合計画審議会を開会する。

2. 市長あいさつ（要旨）

第 2 次総合計画を策定するための審議会を招集したところ、皆様にはご出席いただき感謝している。湖南省はこの 10 月 1 日で誕生から 10 周年を迎える。これまでのまちづくりの中で道路の整備や学校の耐震化等の施設整備の進捗については進んでいる。しかし、これからは人口減少社会の中において、地域をデザインしながら支え合えるまちにしていくことが大事になると考えている。

平成 18 年 10 月に「ずっとここに暮らしたい！ みんなで創ろう きらめき湖南」を掲げて策定した第 1 次総合計画について評価していただいて、足りないこと、新たに取組まなければならないことについて、これから 10 年を見越した審議をお願いしたい。

この計画は 2025 年には団塊世代が後期高齢者になるという年代を迎える前の 10 ヶ年の計画になる。今後、日本の社会の有りようは、変わり方が短期間になり、質も変わってくる。そういったものを踏まえながら、その先の 10 年を見越した今後 10 年に湖南省をどのようにデザインしていくか、ご議論いただきながら計画にまとめあげていただきたい。

国においては「まち・ひと・しごと創生法案」が出されているが、地域においては自らが国といっしょに必死に取り組まなければならない状況と考えている。皆様には、この審議で今後 10 年の指針を示していただきたい。

3. 委嘱状交付

市長より委員代表者に委嘱状を交付（各委員には委嘱状を予め配布）。

4. 審議会委員および事務局の自己紹介

委員の自己紹介。

事務局の自己紹介。コンサルタントの自己紹介。

欠席者は 5 名、過半数以上である 20 名の出席を得ており、成立。

5. 湖南省総合計画審議会の運営について

- 1) 湖南省総合計画策定条例について
- 2) 湖南省総合計画審議会条例について
- 3) 湖南省総合計画策定委員会規程について
- 4) 湖南省総合計画審議会会議傍聴要領について
- 5) 審議会委員名簿

(事務局より上記5議案について説明)

6. 会長、副会長の選出

会長、副会長選出方法について、委員から事務局一任の意見があり、事務局案として、会長に仁連孝昭委員、副会長に久保恵美子委員を推薦。全会一致で事務局案が承認された。

●会長あいさつ

皆様のご推挙で当湖南省総合計画審議会の会長を務めさせていただく。どうぞよろしく願います。先ほど、市長の挨拶にもありましたように、これから湖南省で策定しようとしている総合計画の内容は、今までの総合計画とは根本的に違うものになると考えている。これからは人口減少社会に突入する。これまでは、人口が増えることを前提とする社会をベースにしてきた。経済もバブル崩壊以降は停滞の時期があったものの、これからはさらに根本的に考え方を変えていかなければならない。

本日も若い委員の方の出席が見られるが、やはり、これからの時代を担っていく若い人材をいかに育成していくか、が大きな柱の一つになると考えている。

委員の皆様は、これまで湖南省のまちづくりと深く関わってきた方々である。これまでの経験に根ざした知識や湖南省への愛情をもって今後の湖南省の方向性を決める総合計画の策定にお力をお貸し願いたい。

●副会長あいさつ

副会長という大役を担うことになり、大変な重責を感じている。微力ではあるが、精いっぱい努めさせていただく。何卒どうぞよろしく願います。

7. 諮問

市長より会長に第2次湖南省総合計画の策定が諮問される。

8. 総合計画基本構想、基本計画の説明および第2次湖南省総合計画の策定について

(事務局より上記議案について説明)

●委員

2ページの総合計画のコンセプトがピラミッド型の図で示されているが、構造が逆ではないだろうか。基本構想が下で実施計画が一番上ではないかと思う。

●会長

私もこの図を見たとき委員と同じような印象を抱いた。一番のベースとなるものが基本構想であり、基本計画、実施計画はその上に積み上げるものである。総合計画の構成を説明するにはピラミッドではない表現が良いと思う。ご指摘の資料は、第1次総合計画について説明したものである。

●事務局

これは第1次総合計画の概要版であり、総合計画のイメージをご理解いただくために分かりやすい資料として配付させていただいた。ご意見を踏まえてふさわしい表現としたい。

9. 議題

1) 第1次総合計画の検証について

(事務局より上記議案について説明)

質 疑

●委員

地域福祉計画では、市民とともに作る計画として評価についても市民とともに行った。総合計画についても、そのような視点はないだろうか。

●事務局

最終的にはホームページなどで公表する。そのプロセスについては時間的な制約もあり、市民参画で評価作業を進めることは困難である。

●会長

シートは市で作成し、評価に市民も参画する機会があるということによろしいか。

●事務局

評価シートは市が作成し、最終的に評価結果を公表し、広く市民に見ていただくことを考えている。

●委員

このシートを採用した理由を端的に説明願いたい。

●事務局

当初に設定した目標の達成度を確認、整理する様式として、このようなシートが評価しやすいと考えて作成している。

●会長

それでは、一つ目の議案である第1次総合計画の検証について承認いただける方は挙手をお願いします。

採 決

過半数以上の挙手を得て、本件は可決された。

2) 第2次湖南省総合計画策定組織体系図(案)について
(事務局より上記議案について説明)

●委員

湖南省わかもん委員会はいつごろ募集する予定か。

●事務局

12月頃からホームページやフェイスブックで公募したい。

●委員

各まちづくり協議会からも人を集めて実施するなど、地域の声が反映されるようにしていただきたい。

●事務局

湖南省には4つの中学校区があり、この地域バランスも考慮しながら企画を検討したい。

●委員

市長、会長の言葉にもあったように、これからは新しい視点が求められる。市役所内の策定委員会の構成を見ると、作業部会は旧態依然の縦割り型になっているように感じる。今後は分野横断的にしなければ、予算がますます限られる時代に総合的、一体的、効率的な施策展開は望めない。せめてしっかりと横の連携を図っていただきたい。

●会長

縦割りの弊害をなくし横串を通すような工夫をお願いしたい。

●事務局

ご意見ありがとうございました。

●委員

湖南省わかもん委員会は、18歳以上が対象とされているが、高校3年生から参加することを想定しているのか。

●事務局

高校卒業以上の方を想定しており、実際に募集する際には、表現を考慮したい。

●委員

中学生にはアンケートを実施することになっている。高校生の意向把握はどのように行うのか。

●事務局

一般市民向けのアンケート調査は、16歳以上の市民を対象としており、高校生も対象に含まれる。

●委員

10年たったら高校3年生も28歳になっている。今後を担う若者の意見をしっかりと拾い上げるべきであり、若者が議論することそのものが重要である。

●事務局

ご意見ありがとうございました。高校生に集まっていただくことは難しいのではないかと考えている。ご意見を踏まえて事務局で検討させていただきたい。

●会長

事務局が課題視されているのは、開催時間の問題だけで、議論的内容的には高校生でも問題ないのだろうか。

●事務局

高校1年生までを対象とするとなると16歳も含まれる。少し難しいのではないだろうか。

●会長

どのようにしたら若者の意見を聞くことができるか。

●委員

高校生に参画を呼びかけても、実際に参加する人がどの程度いるだろうか。高校生が集まる場、機会を活用してまちづくりへの自由な意見を出してもらう方が現実的ではないか。

●委員

高校生を集めた時に行政職員が入る必要はない。自由に話し合わせることが大事である。自由闊達に話ができる場所を提供すべきである。

●会長

公募では応募してくれる高校生はほとんどいないと想定される。わかもん委員会を組織すること自体が一步前進だと思う。ただ今の皆様のご意見を参考にして、さらに工夫していただきたい。

●委員

総合計画ということでは、高校生は意見が言えないだろう。何かテーマを設定して自由な雰囲気の中で話し合ってもらうのが良い。

●会長

ご意見を参考にして企画していただきたい。

●委員

例えば、若者を年齢で定義しているが、そのこと自体が旧態依然ではないだろうか。自分が若者だと思えば何歳でも良いのではないだろうか。

事務局は、高校生の安全を心配しているが、これから安心なまちづくりにしようとしているのに、そういった考え方は良くない。

インタビューをしてまわる方法も考えられる。その方が意見をじかに聞いてもらえるという満足感がある。この場合はインタビュアーの力量が重要である。

●事務局

会議時間について心配であると申し上げたのは、行政職員としてというよりも、自ら一人の親としての感覚である。

湖南省内にも石部高校、甲西高校があるので、ご意見を踏まえて検討したい。

●委員

夜でなくても、土・日曜日などに開催する方法も検討いただきたい。

行政内の組織も若手の職員も積極的に参画していただくとよい。係長以上の中堅が中心になるのではなく、10年後に主力となる人材に参画していただきたい。

●事務局

策定委員会のコアは部長級の幹部職員である。実際に検証や計画策定の作業を中心的に担う作業部会は、経験も豊富な中堅職員、係長級が中心となっている。

また、わかもん委員会は、夜のワークショップ以外にも昼間に現地踏査を実施することなども考えており、日曜などにも実施する予定である。

●会長

事務局の体系案を骨格として、肉をつけていくようなご意見をたくさんいただいた。ご意見を踏まえてもう少し工夫していただくことで承認をいただきたい。

採 決

過半数以上の挙手を得て、本件は可決された。

3) 第2次湖南省総合計画策定日程(案)について

(事務局より上記議案について説明)

●委員

いきなりまちづくりについてご意見を、と言われて書ける人は少ないと思う。事前に広報などで知らせるべきではないだろうか。パブリック・コメントの実施結果などを見ても非常に回答数は少ない。

●会長

アンケート調査を実施することは、もちろん重要であるが、アンケートだけで市民意向の把握をするのではなく、ワークショップ的なものを市民参画で開催できると良い。

●事務局

5年前のアンケート調査では、回収率40%あり、一般的なアンケートの回収率と比較するとそれなりに高いものであったと考えている。

●委員

もうそろそろアンケートを実施するのは、やめたほうが良いのではないか。アンケートよりもインタビューを実施するほうが良い。

●会長

アンケートで市民の意見を求めると市民の平均的な意向は把握できる。無駄なことなどは考えていないが、今回は、平均的な意見を聞いているだけでは、これからのまちづくりの方向性を定めるのに必要な知見を得ることはできない。これまでと世の中が変わらないならば、平均的な意見をベースにしても良いのだろうが、これまでと全く違うペースで少子高齢化が進んでいく。

アンケート調査を実施するだけでなく、今後の課題を提示して市民の議論を盛んにすべきである。わかもん委員会ではそのような方向性で実施していただきたい。なるべく広く市民から意見を聴取していただきたい。

●事務局

昨年度から市長のタウンミーティングを広聴活動の一環として実施している。その実績からは、若い方がなかなか出席いただけない実態があり、今回のわかもん委員会は若者ミーティングとして企画している。

●委員

なぜ若者が参加しないのかを分析する必要がある。非常に大切だと思う。

●会長

おそらく、若い人は上の世代を信頼していないために、自分たちの意見を言わない。選挙における若者の投票率も低くなっている。投票行動で社会が変わることを期待していないことの表れである。これは大人の責任である。若者にやる気がないのではなく、若者は社会にやる気を与える価値がないと思っている。社会に関わらない層が広がっていくのは大変な問題である。次の世代に社会をバトンタッチできるように育てていく必要がある。避けて通ることのできない重要な課題の一つとして位置付けていただきたい。

●委員

後期基本計画の17ページに、当時のアンケートの結果が掲載されている。住みよいと回答した理由として「買い物が便利だから」が挙げられている一方で、住みにくいと回答した理由に「買い物が不便だから」がある。

また、中学生アンケートでは、湖南省が好きと回答した理由として「みんなで遊んだり楽しんだりできるところがあるから」が挙げられている一方で、好きでない理由として「みんなで遊んだり楽しんだりできるところが少ないから」がある。

このような相反するような結果をどう解釈すべきか、工夫が必要である。

●会長

議案3の日程について特にご意見はないだろうか。承認いただける方は挙手をお願いしたい。

採 決

過半数以上の挙手を得て、本件は可決された。

4) 第2次湖南省総合計画に関する市民意向調査について」(案)について
(事務局より上記議案について説明)

●会長

アンケートについては、すでにいくつかご意見が出ており、これらの意見を反映させる形で作成していただきたい。

●委員

配布前に、委員にアンケート調査票の内容は提示されないのか。できれば見せていただきたい。

●事務局

アンケートの内容は、前回と大きく変えない方向で考えている。この10年間の市民の意識の変化を分析したいため、前回の内容を踏襲する内容で実施する予定である。

委員の皆様のご意見を踏まえ策定委員会で検討したい。

●会長

なるべく委員の皆様の内容を見ていただいた上でアンケート調査を実施すべきである。

●事務局

ただ今からアンケート調査票の案を用意させていただく。会議終了までにお手元に配布させていただくのでファックスでご意見をお寄せいただきたい。

●委員

アンケート調査の結果は、どのようにまちづくりに活かされているのだろうか。

●事務局

市民の生活は多岐にわたっており、細かくお聞きすることは難しい。資料9に調査内容の概要をお示ししており、これに沿って意向把握を行う。例えば、まちづくりへの住民参加について、ボランティアへの参加意向が高ければ、行政として窓口を広げるなど施策に活かしていくことになる。

●委員

アンケートの結果が今後のまちづくりに活かされるように願います。

●委員

これから人口減少社会に突入する。相互に支え合う、きめ細かな社会づくりを進めるのであれば、ひと手間かけてクロス集計をしていただきたい。男女、年齢層、地域別の意見の違いが見えてくると施策に活かしやすい。

若者が選挙で投票しない、まちづくりに参画しない理由として、忙しい、言っても変わらない、というものがある。わかもん委員会は、とても良い取り組みだと期待する。まち歩きなども良いと思う。あまり型にはまらずに、自由な雰囲気での運営をお願いしたい。

●事務局

アンケートについては、前回との比較で市民意向の変化をとらえるため、前回の設問との一貫性を持たせつつ、新たな回答の選択肢も必要となる。

地域別、年齢別の分析も行っていきたい。後期基本計画には、紙面の都合上全体集計の結果しか載っていない。

わかもん委員会も自由なご意見をいただきやすい運営をしていきたい。

●委員

アンケートがどのように活かされるのか。市民意向に沿った施策展開を行政が勇気を持

ってできるかが重要である。行政にその意思があることが重要である。

●事務局

アンケートは統計的な意味を持ち、市民の意向が高ければ行政としてその意向に沿った施策を展開していくことになる。

●会長

今後はこれまでの政策の延長線上にはないまちづくりが求められている。

既定の政策の路線を延長するような総合計画ではなく、ベースが大きく変わる中でどのような方向性に進むべきかが重要である。

アンケートの方法が前回と同様であっても、その集計結果を注意深く読む必要がある。アンケートだけでなく多様な方法で若者、市民の意向把握を行っていただきたい。これまでの傾向と現在の傾向がどのように変わったのかが見えてくるというのも大事なことで、アンケート調査を実施する意味はある。

●委員

青年会議所は若者をターゲットとした取り組みを実施している。若者に成功体験を与えていくことが重要だと考えている。そういった視点で取り組みを企画していただきたい。

アンケートについては、第1次の検証はどのようにされたのか。

●会長

先ほど事務局から説明があったように、柱ごとにどこまでできて、どの部分ができなかったのか整理する。

●委員

アンケートなどで市民目線での検証はされるのだろうか。

●事務局

検証結果をホームページなどで広く市民に公開していく。

●委員

アンケートの趣旨が変わってしまうかもしれないが、せっかくなのでこの10年間の取り組みの成果について、市民がどのように感じているのかが把握できるようなアンケート内容になることを検討していただきたい。

●会長

アンケート内容に委員の意見が反映されるように検討していただくということで了解いただきたい。

採 決

過半数以上の挙手を得て、本件は可決された。

10. その他

1) 今後の会議開催日程について

現段階で次回の詳細な開催日は決定していない。事前にお知らせする。

2) 委員より提案

●委員

アンケート内容に関する意見提出は、ファックスだけでなく電子メールでも可能なようにメールアドレスもお知らせいただきたい。

●事務局

ご意見の通り対応する。

11. 閉会

熱心にご議論いただきありがとうございました。

以上